



黒沢一成議員

防災対策

火災警報器・悪質業者対策

あらゆる機会をとらえ万全に

質問 平成二十三年六月一日までに、各家庭に火災警報器の設置が義務づけられた。心配されるのは高齢者を狙った悪質業者の出没である。対策は。

沼崎町長 全世帯に配布したチラシ、パンフレット及び春秋の火災予防週間などにおいても注意の喚起を行っている。

高齢者世帯及び一人暮らし老人の対策として地域ぐるみで取り組むよう、あらゆる機会をとらえ、不正な訪問販売に対し万全を期す。
佐藤消防防災課長 消防職員が個人宅に訪問販売す

ることはない。行政が特定の業者に斡旋や販売を依頼することはない。義務づけはされたが罰則規定はない。また、ガス業者でリースを行っているところもある。

質問 家庭にある消火器は期限切れが多いのでは。

佐藤消防防災課長 消火器は各家庭に設置・点検の義務づけはなく、火災発生に備え任意で設置している。中に入っている薬剤が湿気で固まると、使用時に出てこない。また、さびたり、変形した消火器の使用は危険である。五年に一度、点検することが望ましい。

地域安全

生徒の登下校時の安全対策

「子ども安全支援隊」で対応

質問 現在の小中学校の登下校の状況、不審者の出没状況はどうであるか。

松尾教育長 各小学校では、「子ども安全支援隊」を組織し、地域の現状に応じて学校ごとに児童の登下

校の安全に対応している。

また、スクールガードリーダーによる巡視を行い、安全確保に努めている。

本年度、町内での不審者出没の報告は、大浦地区で小学生への声掛け事業一

件だけである。

質問 低学年だけでも集団下校の形は難しいか。

澁谷教育次長 各学校がそれぞれの経営方針に基づいて行っている。週一回とか月一回とか行っているところもある。登下校も自立を促す、教育の一環である。

質問 地震津波時に小さな子供でも避難路が分かるような看板も必要では。

内館防災対策主幹 学校と相談し、登下校時の子供を対象とした効果的な看板があれば設置を考えたい。

町の考えを聞く



子ども安全支援隊による一斉下校の様子 (山田北小学校)